

河川に関する世論調査〈概要〉

令和4年4月

調査実施の概要

1 調査目的

河川への関心や河川空間の利活用に関する都の取組について都民の意識や意見・要望を把握し、今後の都政運営の参考とする。

2 調査項目

- (1) 河川への関心
- (2) 河川空間の利活用

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
 - (2) 標本数：4,000標本
 - (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
 - (4) 調査方法：郵送法（郵送送付・郵送回収、WEB〔インターネット〕回答併用）
 - (5) 調査期間：令和3年11月12日～12月5日
 - (6) 調査実施機関：一般社団法人輿論科学協会
- (注) 前回「都民生活に関する世論調査」（平成21年）までは、20歳以上、3,000標本、個別訪問面接聴取法で実施

4 回収結果

- (1) 有効回収標本数（率） 1,829標本（45.7%）〔うち郵送1,249標本、インターネット580標本〕
- (2) 未完了標本数（率） 2,171標本（54.3%）

調査結果の概要

※ n は質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。

※ 個々の比率の合計は、全体の計に一致しないことがある。

※ M. A. はいくつでも選択、3M. A. は3つまで選択

※ M. T. は回答の合計を n で割った比率

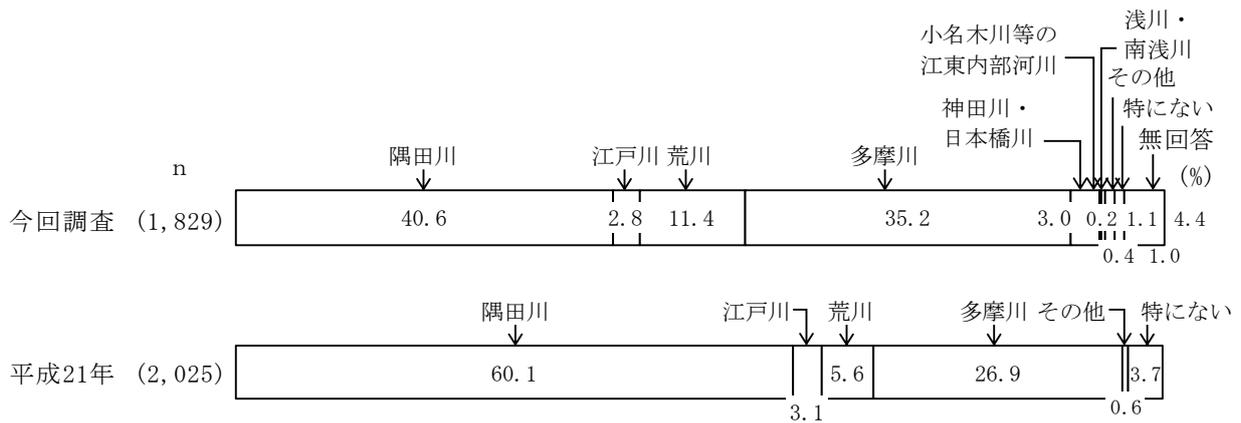
※ 前回までの調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回は郵送法（インターネット回答併用）で実施したため、調査結果を単純に比較することはできないので留意が必要

1 河川への関心

(1) 東京の代表的な河川：東京の代表的な河川と聞いて思い浮かべる川を聞いた。

(本文 P3～P5)

- ・「隅田川」が41%でトップ（前回より20ポイント減少）
- ・「多摩川」35%（前回より8ポイント増加）、「荒川」11%が続く



(注1) 「神田川・日本橋川」「小名木川等の江東内部河川」「浅川・南浅川」は今回調査で追加

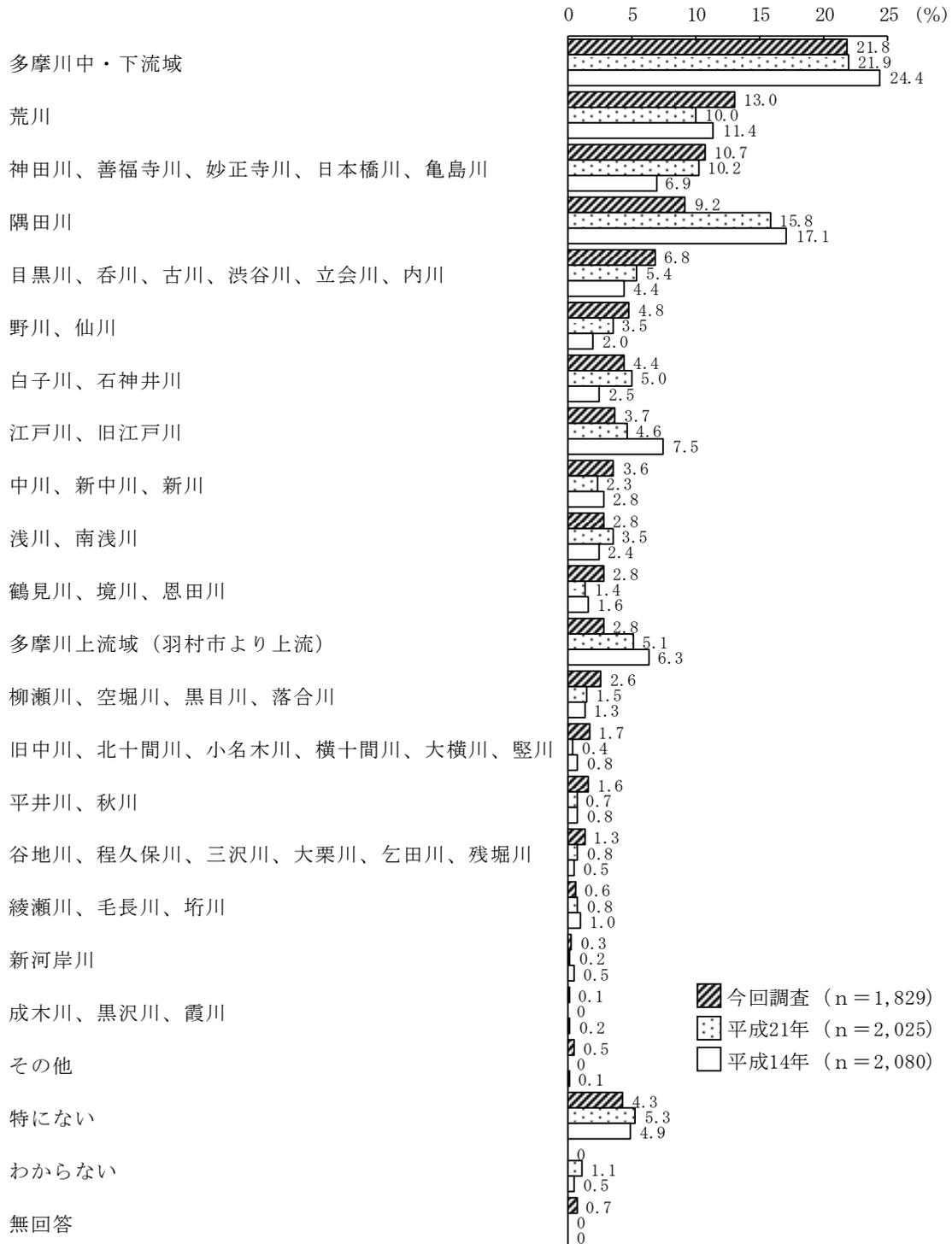
(注2) 平成21年は「都民生活に関する世論調査（平成21年8月調査）」

(2) 身近に感じる東京の河川：日常生活で最も身近に感じる東京の河川を聞いた。

(本文P6～P8)

・「多摩川中・下流域」が22%でトップ

・「荒川」13%、「神田川、善福寺川、妙正寺川、日本橋川、亀島川」11%、隅田川9%が続く



(注1) 「神田川、善福寺川、妙正寺川、日本橋川、亀島川」は平成21年調査では「神田川、善福寺川、妙正寺川」
 「旧中川、北十間川、小名木川、横十間川、大横川、竪川」は平成21年調査では「旧中川、北十間川、小名木川、横十間川、大横川」

「わからない」は平成21年調査までの選択肢

(注2) 平成21年は「都民生活に関する世論調査 (平成21年8月調査)」

平成14年は「河川・森林に関する世論調査 (平成14年9月調査)」

(3) 身近な河川を訪れる頻度：身近な河川があると答えた人（1,739人）に、その河川を訪れる頻度を聞いた。

(本文P9～P12)

- ・「ほとんど行かない」が25%でトップ
- ・「月に1～2回程度」16%、「週に1～2回程度」12%が続く

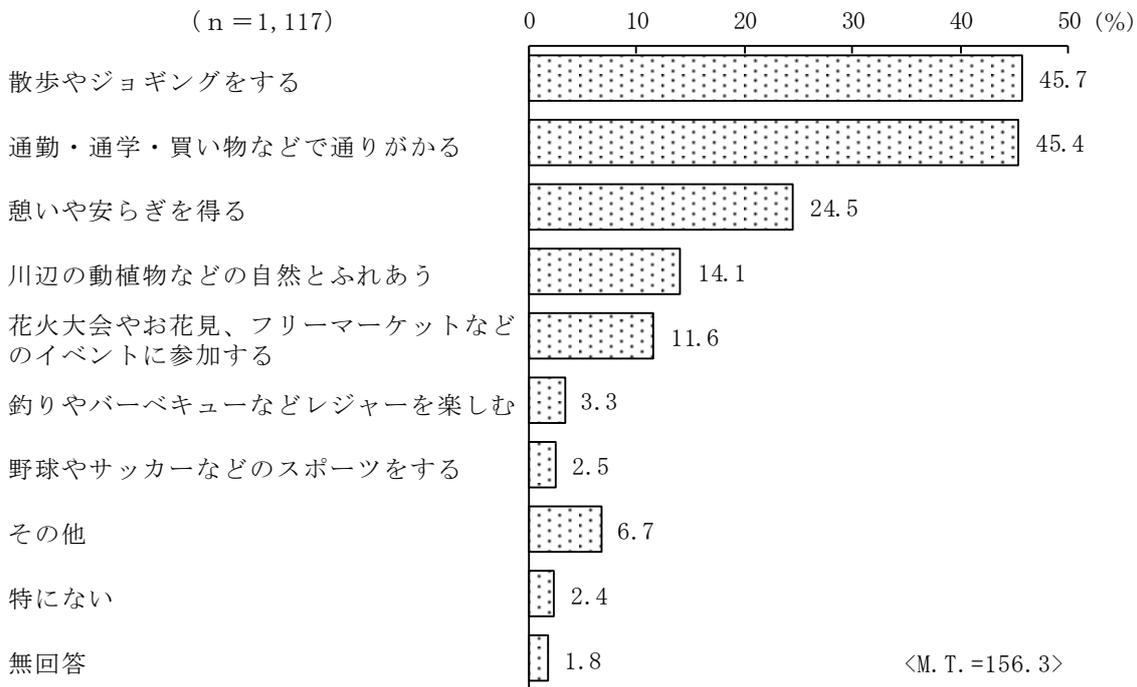
n	週に3～4回程度		月に1～2回程度		年に1～2回程度		ほとんど行かない	無回答	(%)
	ほぼ毎日	週に1～2回程度	2～3カ月に1回程度						
今回調査 (1,739)	11.2	5.9	11.5	16.4	7.8	11.4	24.7	11.0	
平成21年 (1,895)	9.9	3.6	8.7	16.3	8.2	21.6	31.7		

(注) 平成21年は「都民生活に関する世論調査（平成21年8月調査）」

(4) 身近な河川に行く目的：身近な河川を年に1回以上訪れると答えた人（1,117人）に、その河川に行く目的を聞いた。(M. A.)

(本文P13～P18)

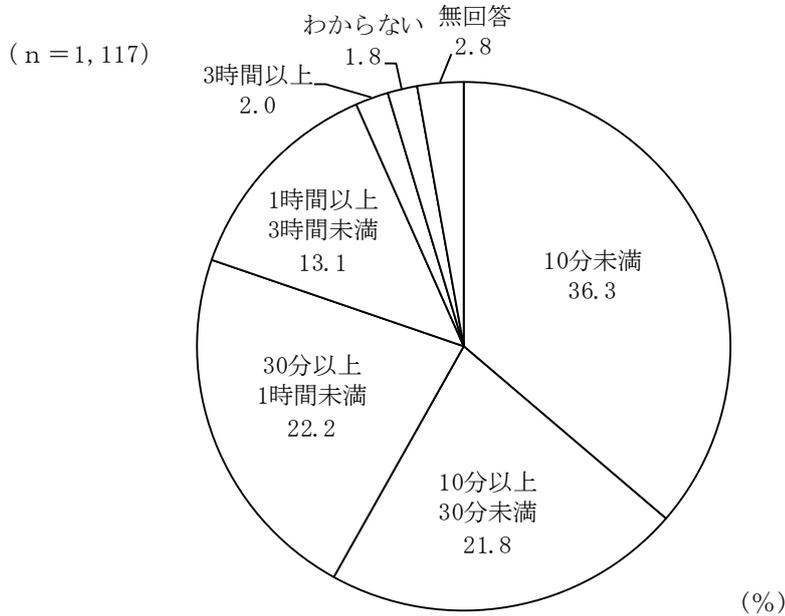
- ・「散歩やジョギングをする」が46%でトップ
- ・「通勤・通学・買い物などで通りがかる」45%、「憩いや安らぎを得る」25%が続く



(5) 身近な河川で過ごす時間：身近な河川を年に1回以上訪れると答えた人（1,117人）に、その川で過ごす時間を聞いた。

（本文P19～P21）

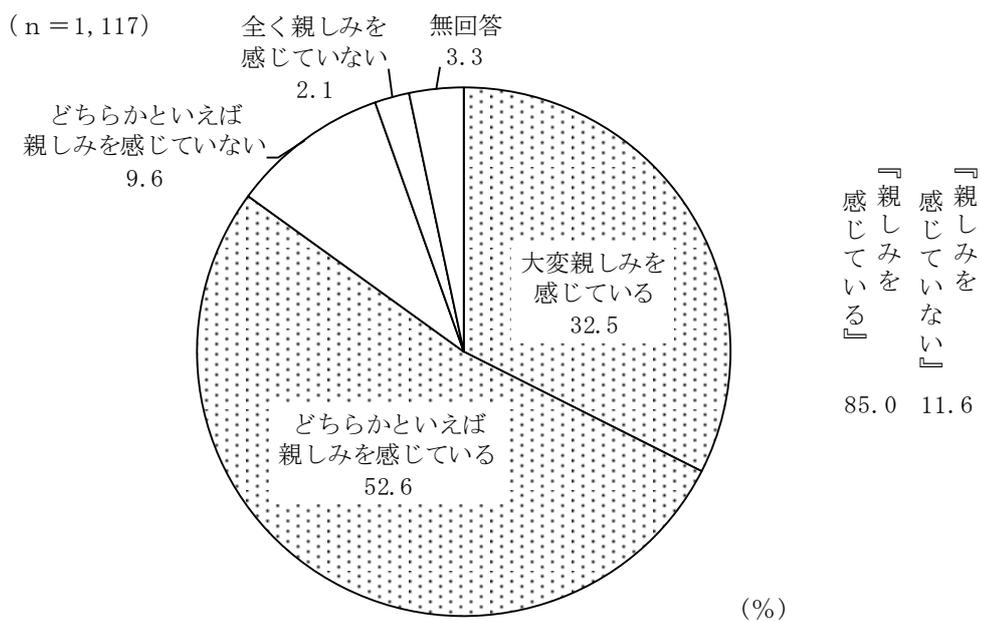
- ・「10分未満」が36%でトップ
- ・「10分以上30分未満」と「30分以上1時間未満」22%が続く



(6) 身近な河川への親しみ：身近な河川を年に1回以上訪れると答えた人（1,117人）に、その河川に親しみを感じているかを聞いた。

（本文P22～P23）

- ・『親しみを感じている』は85%
- ・『親しみを感じていない』は12%

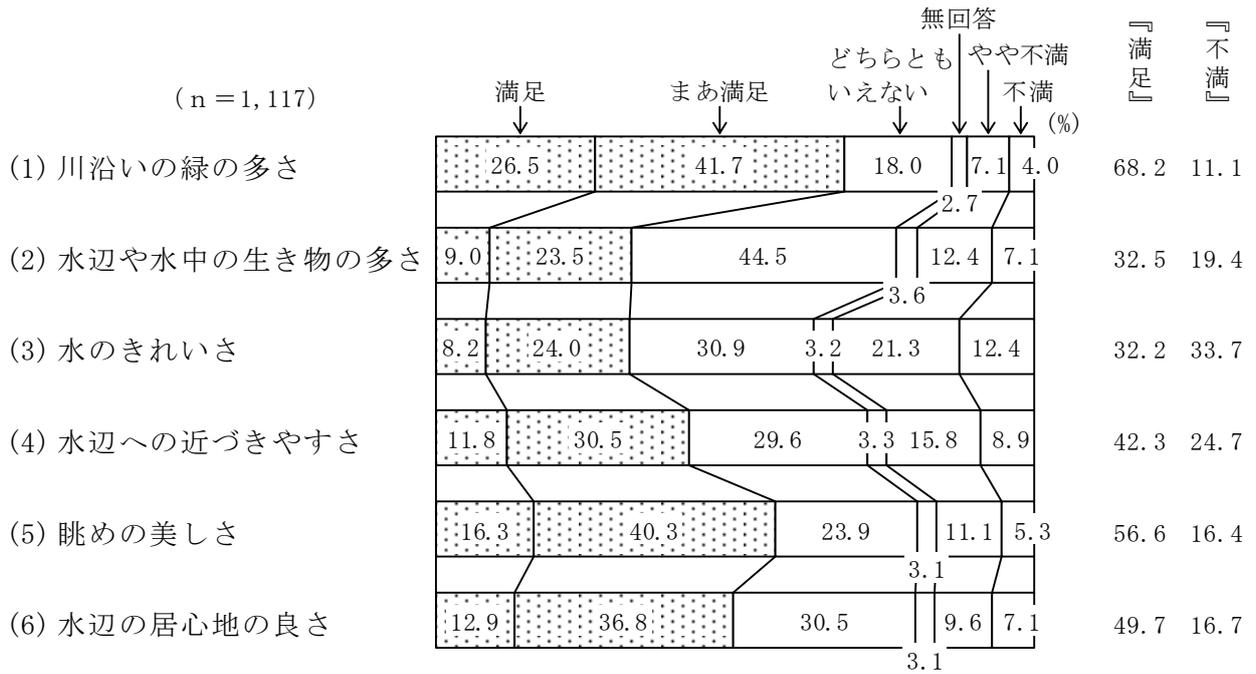


(注) 『親しみを感じている』は「大変親しみを感じている」「どちらかといえば親しみを感じている」の合計
 『親しみを感じていない』は「全く親しみを感じていない」「どちらかといえば親しみを感じていない」の合計

(7) 身近な河川の満足度：身近な河川を年に1回以上訪れると答えた人（1,117人）に、その河川の満足度を6項目について聞いた。

(本文P24～P37)

- ・「川沿いの緑の多さ」は『満足』が68%、『不満』が11%
- ・「水辺や水中の生き物の多さ」は『満足』が33%、『不満』が19%
- ・「水のきれいさ」は『満足』が32%、『不満』が34%
- ・「水辺への近づきやすさ」は『満足』が42%、『不満』が25%
- ・「眺めの美しさ」は『満足』が57%、『不満』が16%
- ・「水辺の居心地の良さ」は『満足』が50%、『不満』が17%

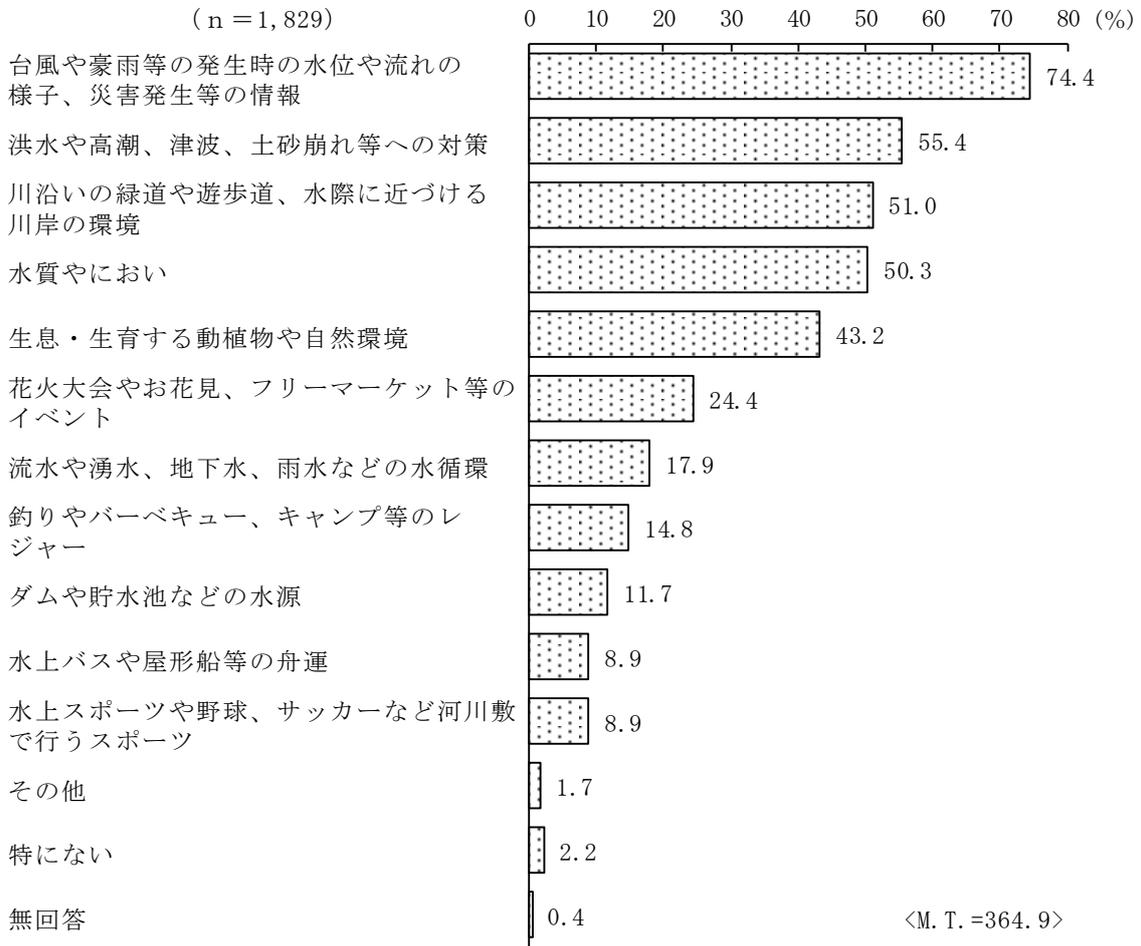


(注) 『満足』は「満足」「まあ満足」の合計
『不満』は「不満」「やや不満」の合計

(8) 河川についての関心事：河川についての関心事を聞いた。(M. A.)

(本文 P 38～P 40)

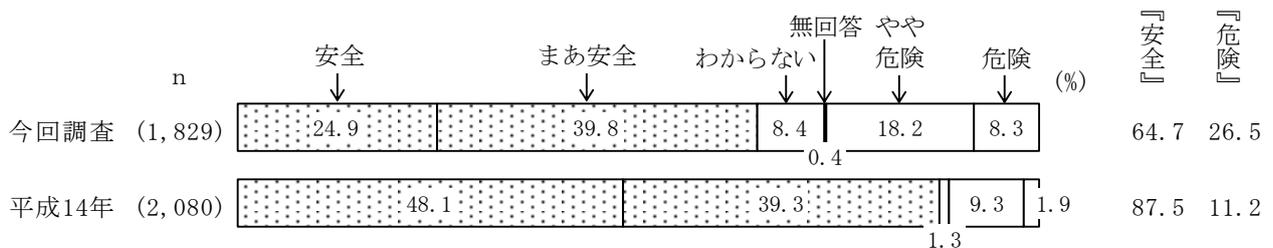
- ・「台風や豪雨等の発生時の水位や流れの様子、災害発生等の情報」が 74%でトップ
- ・「洪水や高潮、津波、土砂崩れ等への対策」55%、「川沿いの緑道や遊歩道、水際に近づける川岸の環境」51%、「水質やにおい」50%が続く



(9) 居住地域の水害安全度：住まいの地域が水害に対して安全だと思うかを聞いた。

(本文 P 41～P 43)

- ・『安全』は 65% (前回より 23 ポイント減少)
- ・『危険』は 27% (前回より 15 ポイント増加)



(注 1) 『安全』は「安全」「まあ安全」の合計

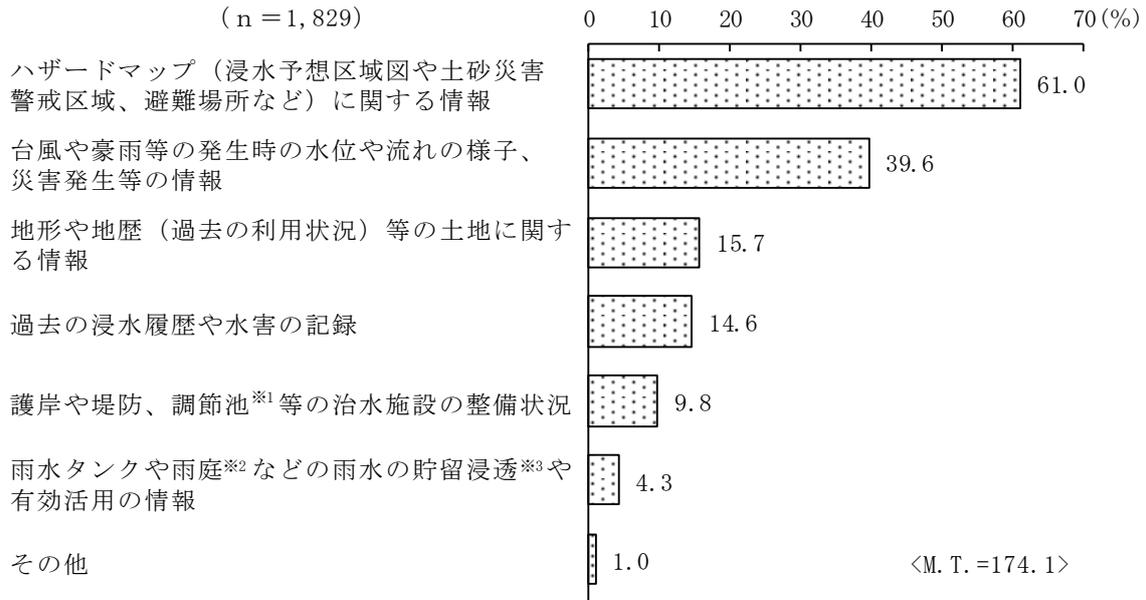
『危険』は「危険」「やや危険」の合計

(注 2) 平成 14 年は「河川・森林に関する世論調査 (平成 14 年 9 月調査)」

(10) 水害に対する安全性や危険性について調べたこと：身近な地域の水害に対する安全性や危険性について調べたことがあるか、ある場合は、どのようなことを調べたかを聞いた。
(M. A.)

(本文 P 44～ P 47)

- ・「ハザードマップ（浸水予想区域図や土砂災害警戒区域、避難場所など）に関する情報」が 61%でトップ
- ・「台風や豪雨等の発生時の水位や流れの様子、災害発生等の情報」40%、「地形や地歴（過去の利用状況）等の土地に関する情報」16%が続く

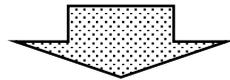


※1 増水した川の水を一時的に取り込み、洪水の量を減らす施設

※2 雨水を一時的に貯めて、ゆっくり地中へ浸透させる機能を持つ庭

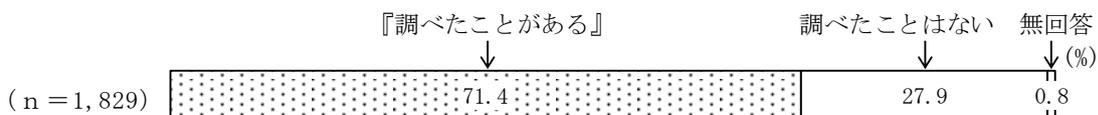
※3 雨水を一時的に貯めたり、直接地下に浸透させたりすること。雨水の貯留浸透を行うことで、洪水の量を減らすことができる。

（ 上記選択肢を答えた人を『調べたことがある』とし、
「調べたことはない」と答えた人との比率をみると以下のとおり。 ）



[水害に対する安全性や危険性を調べた経験の有無]

- ・『調べたことがある』は 71%
- ・「調べたことはない」は 28%

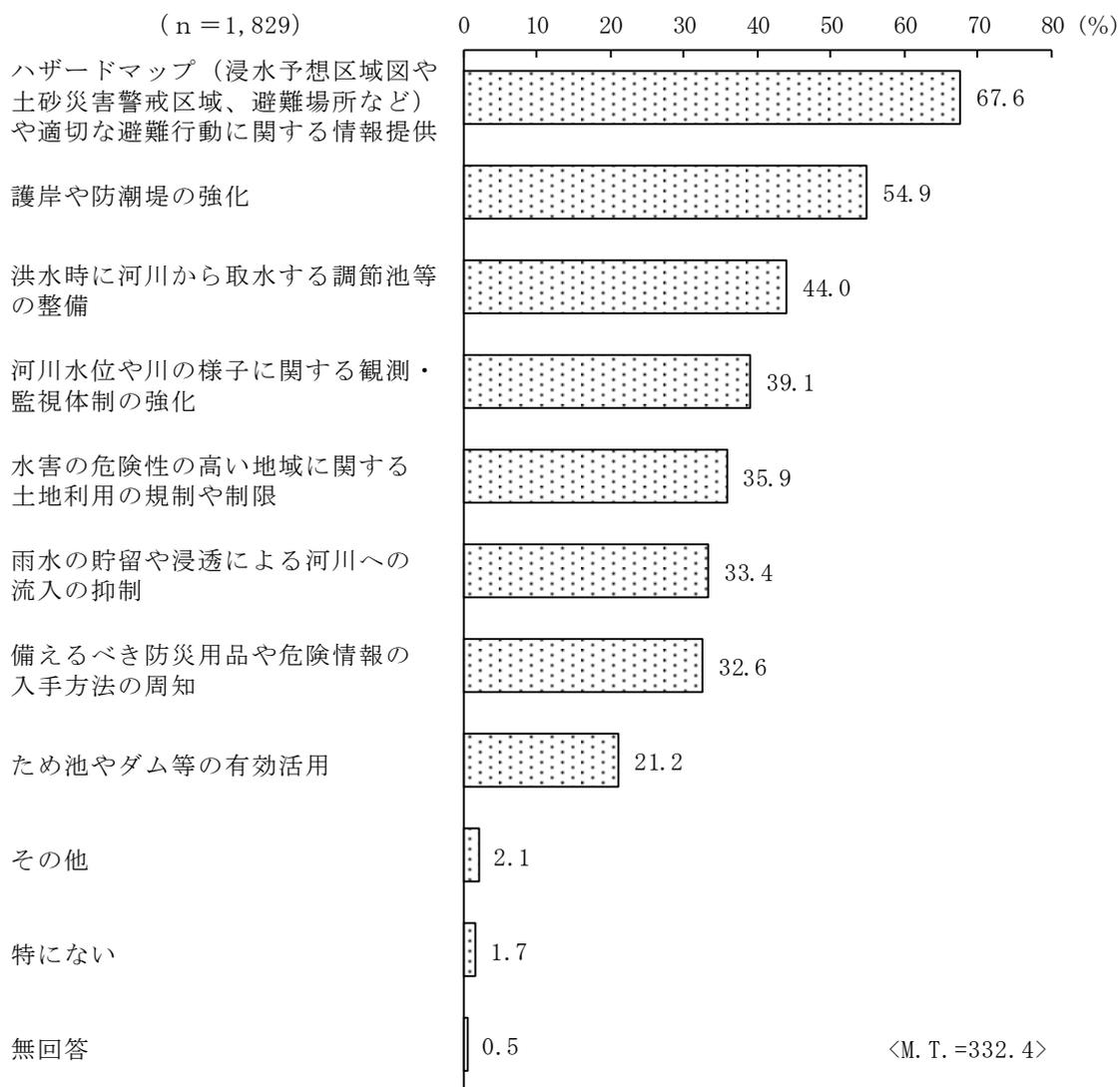


(11) 必要だと思う水害対策：台風や集中豪雨などによる水害について必要だと思う対策を聞いた。

(M. A.)

(本文 P 48～P 50)

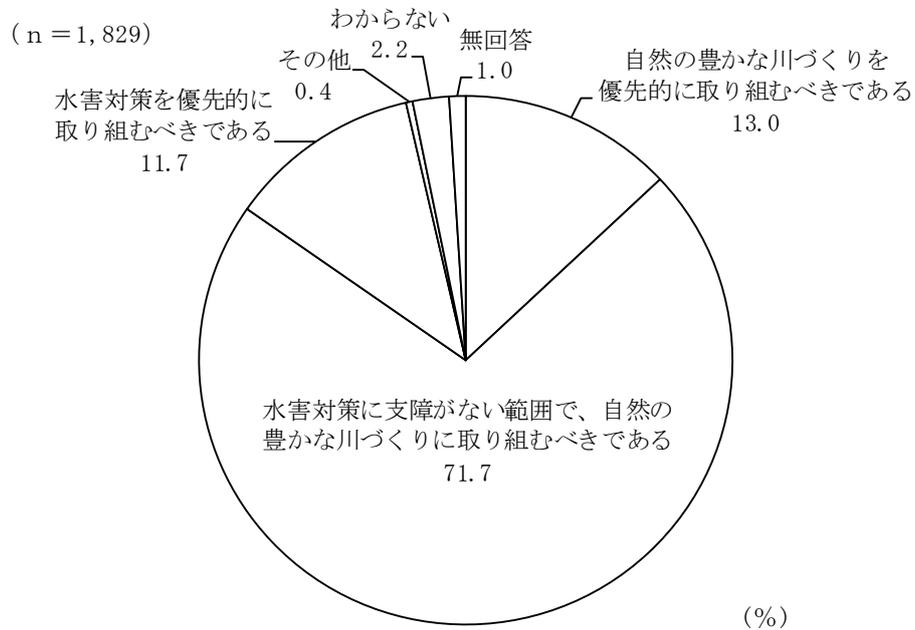
- ・「ハザードマップ（浸水予想区域図や土砂災害警戒区域、避難場所など）や適切な避難行動に関する情報提供」が 68% でトップ
- ・「護岸や防潮堤の強化」55%、「洪水時に河川から取水する調節池等の整備」44% が続く



(12) 自然豊かな川づくりの進め方：自然豊かな川づくりの進め方について聞いた。(M. A.)

(本文P51～P53)

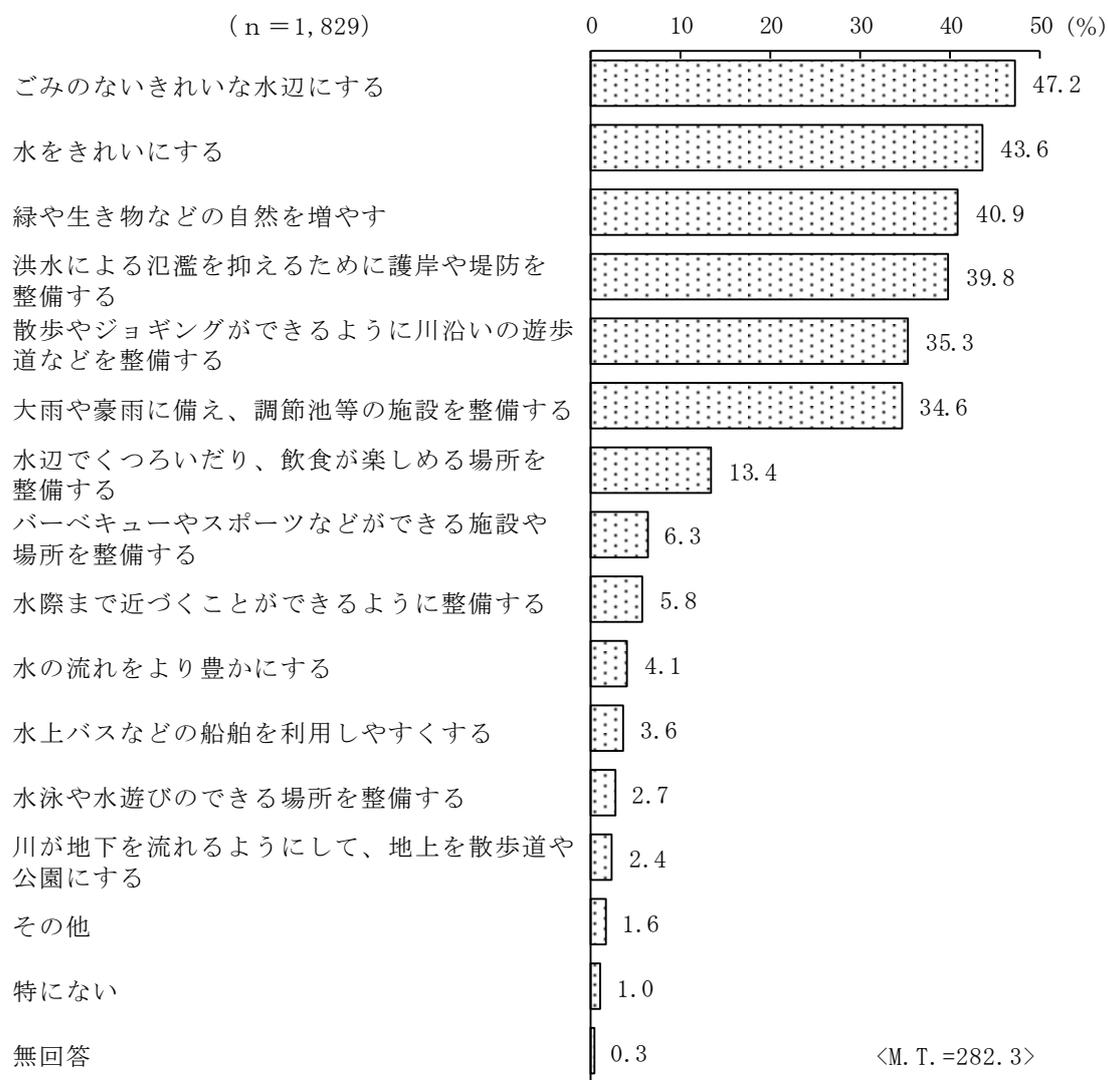
- ・「水害対策に支障がない範囲で、自然の豊かな川づくりに取り組むべきである」が72%でトップ
- ・「自然の豊かな川づくりを優先的に取り組むべきである」13%、「水害対策を優先的に取り組むべきである」12%



(13) 東京の河川の望ましい整備方法：東京の河川をどのように整備するのがよいと思うかを聞いた。
(3M. A.)

(本文P54～P57)

- ・「ごみのないきれいな水辺にする」が47%でトップ
- ・「水をきれいにする」44%、「緑や生き物などの自然を増やす」41%が続く

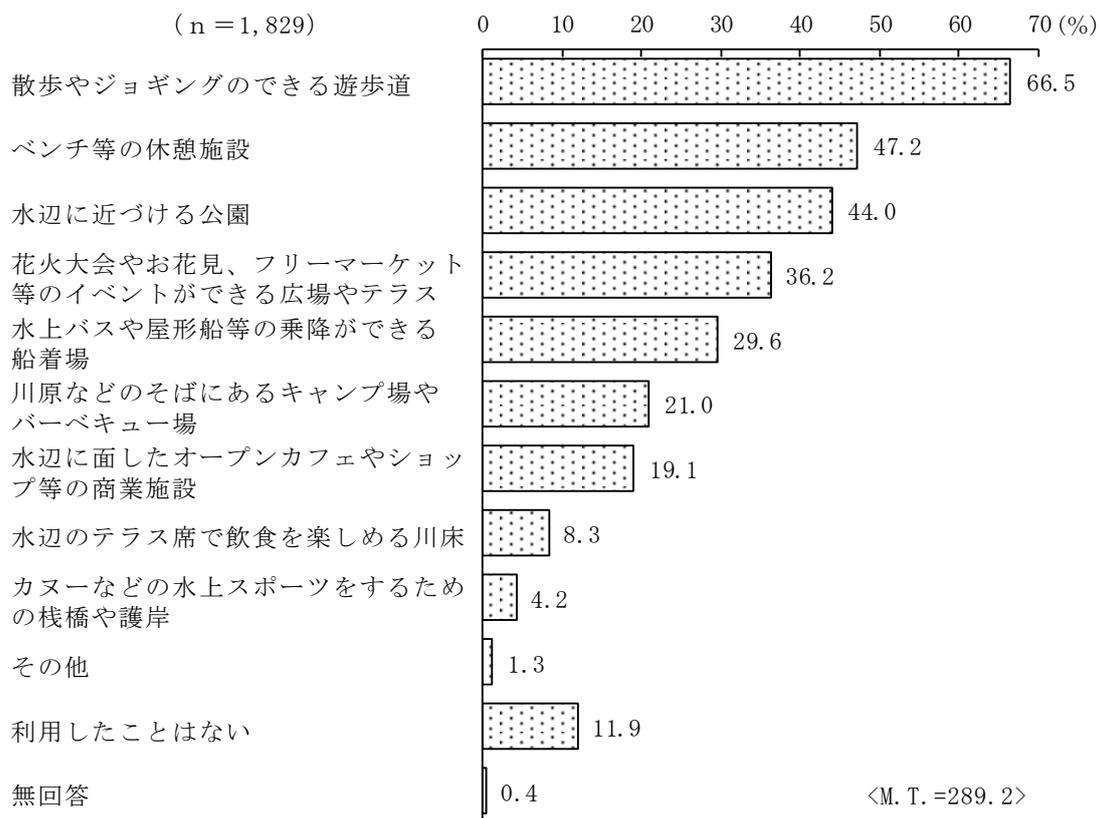


2 河川空間の利活用

(1) 水辺を活用した施設の利用経験：水辺を活用した施設で一度でも利用したことのある施設を聞いた。(M. A.)

(本文 P 58～ P 61)

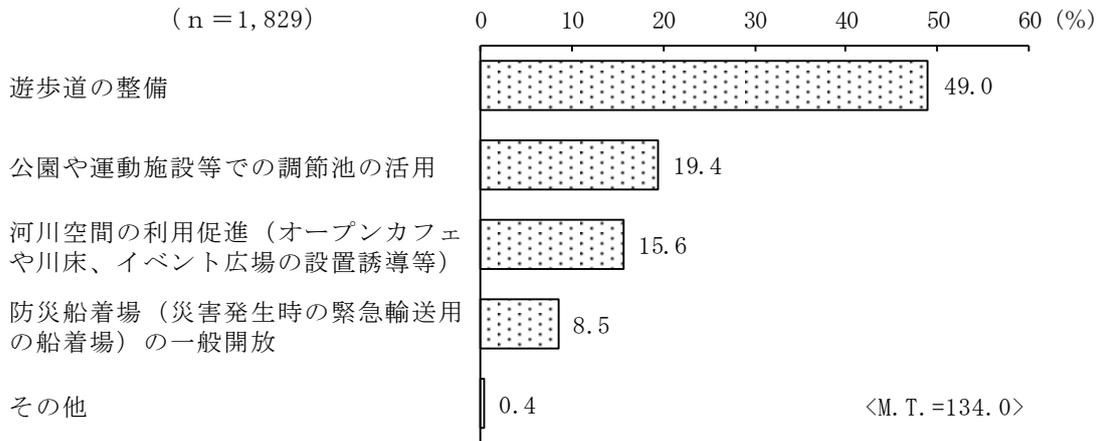
- ・「散歩やジョギングのできる遊歩道」が67%でトップ
- ・「ベンチ等の休憩施設」47%、「水辺に近づける公園」44%が続く



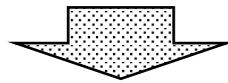
(2) 河川の利活用を進める取組で知っていること：東京都が行う河川の利活用を進める取組で知っていることを聞いた。(M. A.)

(本文P62～P65)

- ・「遊歩道の整備」が49%でトップ
- ・「公園や運動施設等での調節池の活用」19%、「河川空間の利用促進（オープンカフェや川床、イベント広場の設置誘導等）」16%が続く



〔 上記選択肢を答えた人を『知っていた取組がある』とし、
「知らなかった」と答えた人との比率をみると以下のとおり。 〕



[河川の利活用を進める取組で知っていることの有無]

- ・『知っていた取組がある』は58%
- ・「知らなかった」は41%

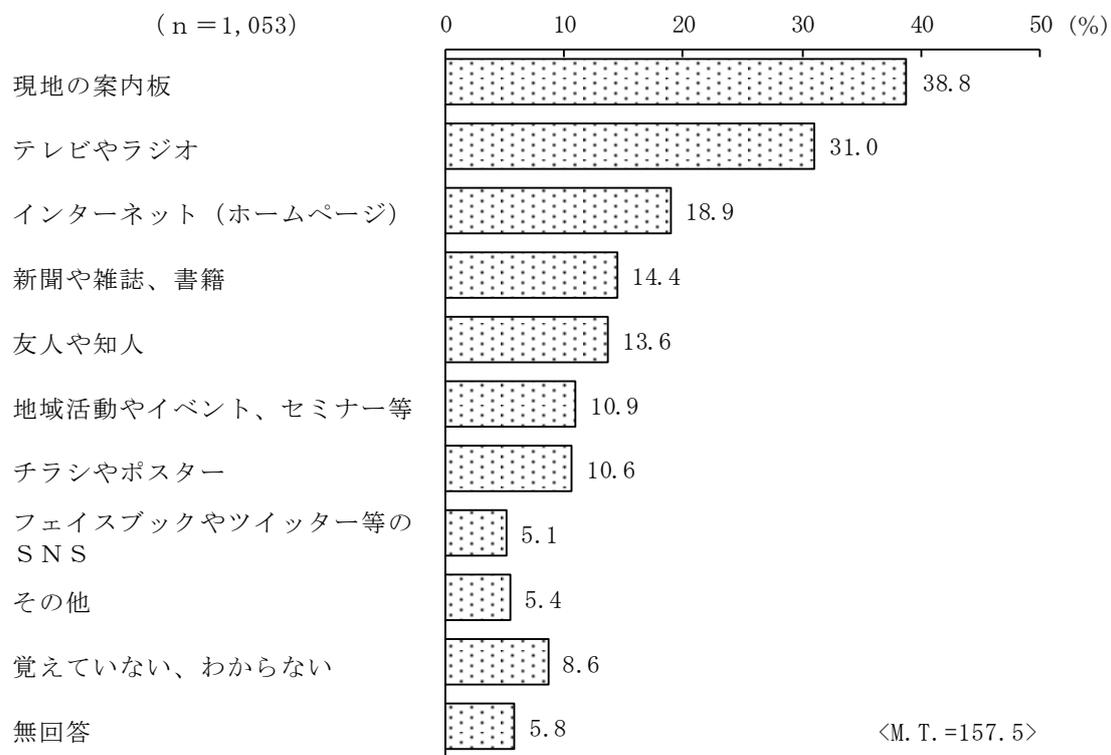


(3) 河川空間の利活用に関する情報の入手方法：知っている取組があると答えた人（1,053人）に、どのような方法で、河川空間の利活用に関する情報を入手したかを聞いた。（M. A.）

（本文P66～P68）

・「現地の案内板」が39%でトップ

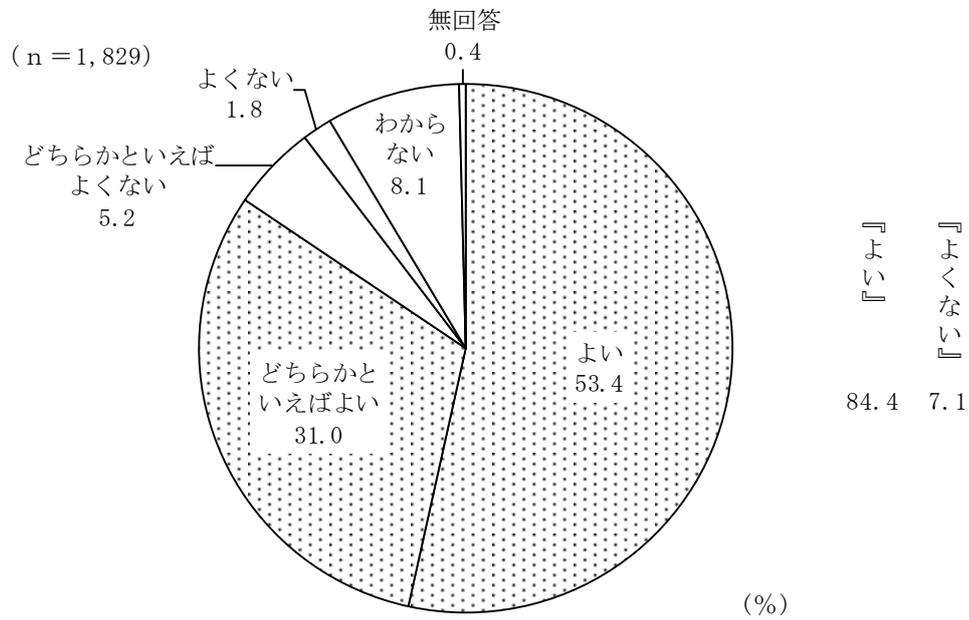
・「テレビやラジオ」31%、「インターネット（ホームページ）」19%が続く



(4) 河川空間の利活用を進める取組の是非：河川空間の利活用を進める東京都の取組についてどう思
うかを聞いた。

(本文P69～P71)

- ・『よい』は84%
- ・『よくない』は7%

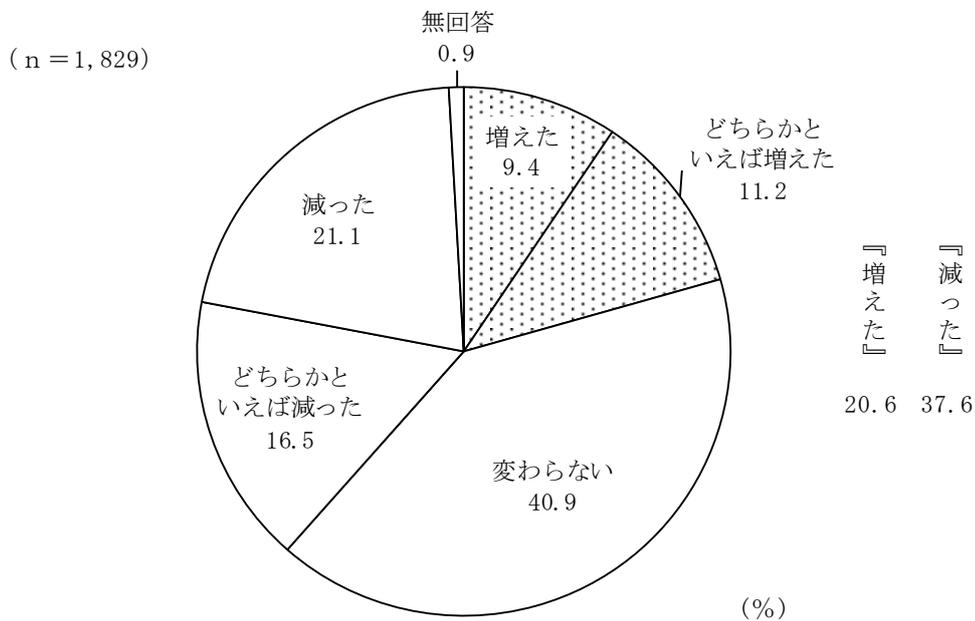


(注) 『よい』は「よい」「どちらかといえばよい」の合計
『よくない』は「よくない」「どちらかといえばよくない」の合計

(5) 屋外の公共空間で過ごす時間の変化：新型コロナウイルス感染症が拡大する前（令和元年以前）と比べて、屋外の公共空間（河川や道路、公園、広場等）で過ごす時間の変化を聞いた。

（本文 P72～P74）

- ・『増えた』は 21%
- ・『減った』は 38%

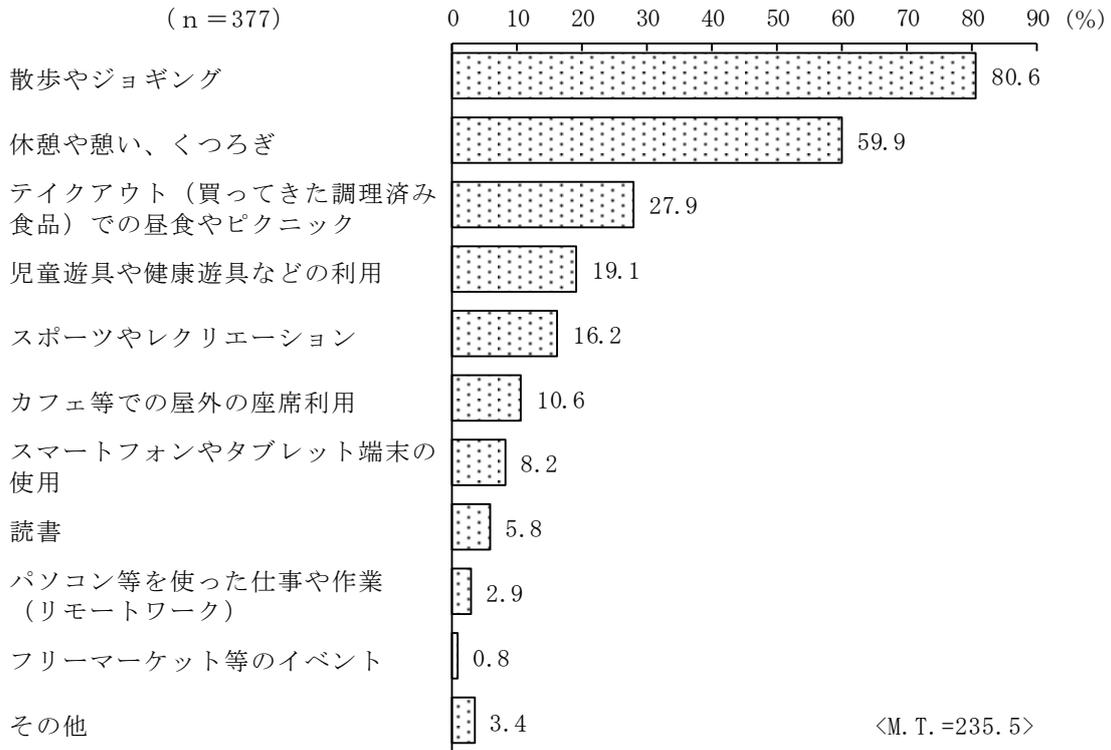


(注) 『増えた』は「増えた」「どちらかといえば増えた」の合計
『減った』は「減った」「どちらかといえば減った」の合計

(6) 屋外の公共空間で過ごす時間が増えた行動：屋外の公共空間で過ごす時間が増えたと答えた人
 (377 人) に、どのようなことで増えたかを聞いた。
 (M. A.)

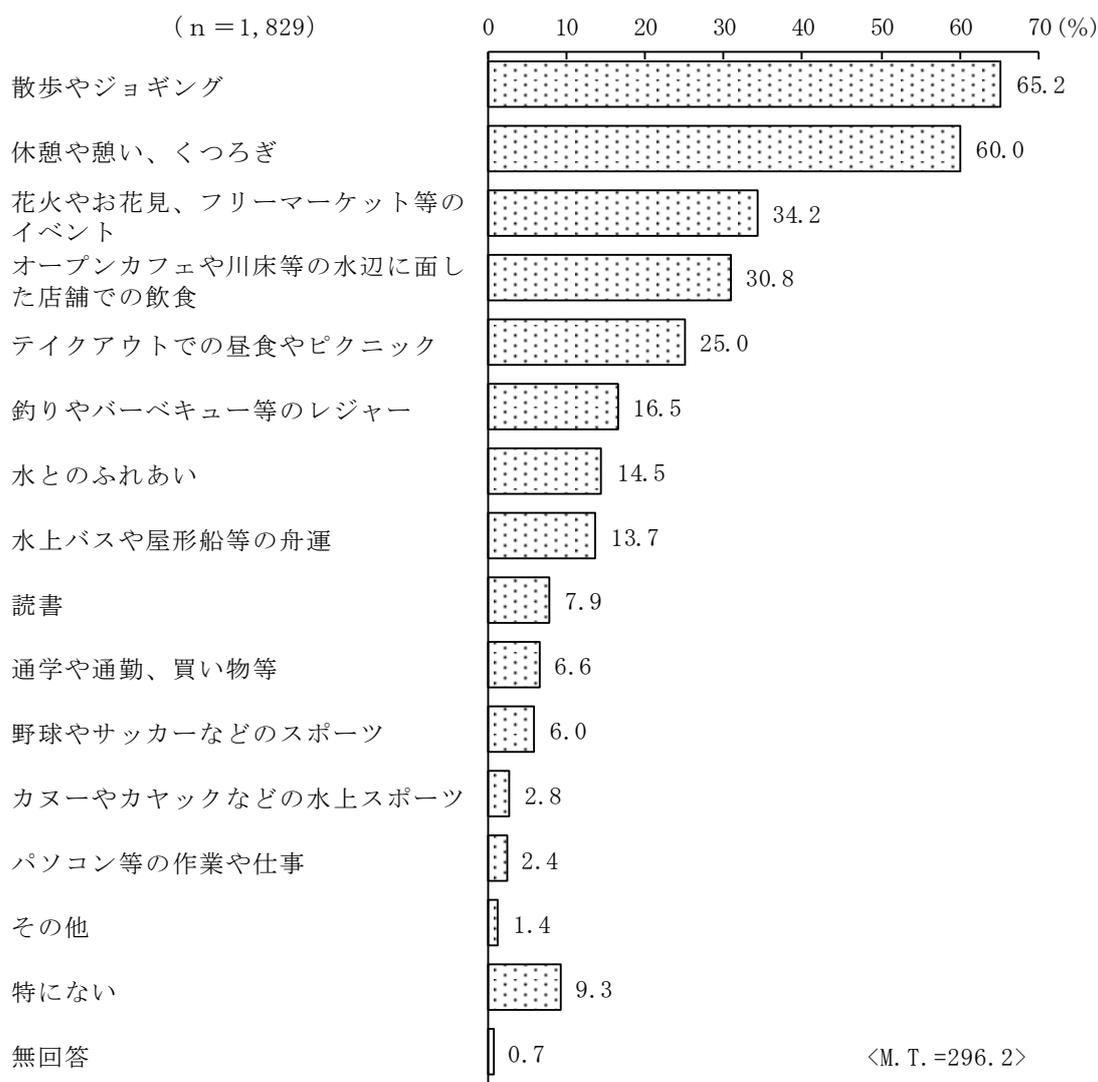
(本文 P75～P76)

- ・「散歩やジョギング」が 81% でトップ
- ・「休憩や憩い、くつろぎ」60%、「テイクアウト（買って来た調理済み食品）での昼食やピクニック」28%が続く



(7) 新型コロナウイルス感染症収束後の河川空間の利用方法：新型コロナウイルス感染症の流行が収まったら、河川空間をどのように利用したいと思うかを聞いた。(M. A.)
(本文 P77～P79)

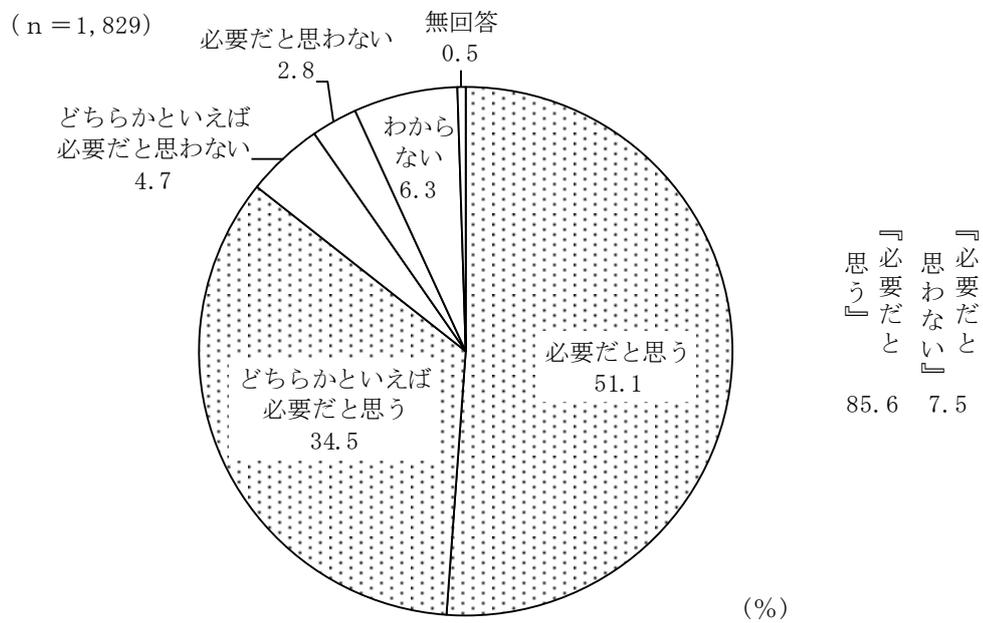
- ・「散歩やジョギング」が65%でトップ
- ・「休憩や憩い、くつろぎ」60%、「花火やお花見、フリーマーケット等のイベント」34%、「オープンカフェや川床等の水辺に面した店舗での飲食」31%が続く



(8) 河川空間にゆとりや居心地の良さを高める必要性：河川空間にゆとりや居心地の良さを高めることは必要だと思うかを聞いた。

(本文P80～P82)

- ・『必要だと思う』は86%
- ・『必要だと思わない』は8%



(注) 『必要だと思う』は「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の合計

『必要だと思わない』は「必要だと思わない」「どちらかといえば必要だと思わない」の合計

